

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要

京丹波町教育委員会

令和7年4月17日に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査における本町の結果の概要についてお知らせします。

【令和7年度全国学力・学習状況調査の概要】

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日及び調査の対象

令和7年4月14日～17日 中学校調査（国語・数学・理科・生徒質問紙）

中学校第3学年生徒（3校：69名）

令和7年4月17日小学校調査（国語・算数・理科） 小学校第6学年児童（5校：61名）
小学校オンライン質問調査（4/18～4/30）は期間内実施

3 調査内容

（1）教科に関する調査

小学校：国語（14問） 算数（16問） 理科（17問）

中学校：国語（14問） 数学（15問） 理科（CBT方式22問の中生徒選択問題あり）

（2）質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

* 教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査で測定できるのは学力の特定の一部です。

1 教科に関する調査結果の概要

《平均正答率（百分率）からみる全国との比較の基準》



	国語	算数・数学	理科
京丹波町 小学校6年生	同程度	同程度	同程度
京丹波町 中学校3年生	同程度	やや下回る	上回る

【小学校】 *学習指導要領に基づく内容、領域及び観点

- 国語 ○学習指導要領の内容別（以下、内容別）では、「**知識及び技能の(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項**」と「**思考力・判断力・表現力等のA 話すこと・聞くこと**」が全国平均を下回る結果となったが、他の内容別（「**知識及び技能の(2) 情報の扱い方に関する事項**」及び「**思考力・判断力・表現力等のB 書くこと**」）は、概ね全国平均程度より少し上回る結果となった。
- 評価の観点別（以下、観点別）では、「**知識・理解**」は全国平均を下回る結果となったが、「**思考・判断・表現**」は概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る問題（2四イ）」をはじめ、**5つの設問に課題**が見られた。
- 算数 ○学習指導要領の領域別（以下、領域別）では、「**D データの活用**」で全国平均を下回る結果となった。
- 観点別では、「**思考・判断・表現**」が、全国平均を下回る結果となった。
- 設問別では、「角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかる 것을 선택하는 문제（2(3)）」をはじめ、**3つの設問に課題**が見られた。
- 理科 ○学習指導要領の領域別（以下、領域別）「生命」を柱とする領域が全国を少し下回る結果となったが、全体的には概ね全国平均を上回る結果であった。**記述式において全国平均をやや下回る結果**となった。
- 共通 ○無解答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、児童が意欲的に問題に取り組んだことがうかがえる。

【中学校】

- 国語 ○内容別では、「**知識及び技能の(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項**」と「**思考力・判断力・表現力等のB 書くこと C 読むこと**」が全国平均を上回り、「**思考力・判断力・表現力等のA 話すこと・聞くこと**」は、全国平均を下回る結果となった。
- 観点別では、「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」とともに、概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する問題（4一）」をはじめ、**6つの設問に良好な結果**が見られたが、「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する問題（2一）」をはじめ、**2つの設問に課題**が見られた。

- 数学 ○領域別では、「**A 数と式**」、「**B 図形**」が全国平均を下回ったが、他の領域（「**C 関数**」、「**D データの活用**」）は、概ね全国平均程度の結果となった。
- 観点別では、「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」とともに、**全国平均を下回る結果**となった。
- 設問別では、「**Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する問題（7（2））**は良好な結果が見られたが、「平行四辺形ABC Dの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する問題9（2）」をはじめ、**7つの設問に課題**が見られた。

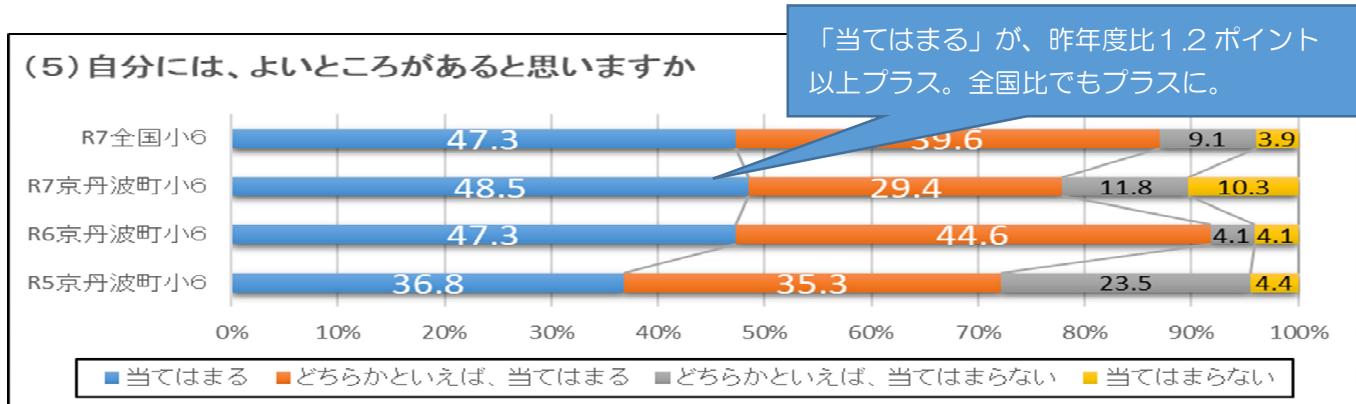
- 理科 ○**平均 IRT スコア**は全国平均を上回る結果が見られた。
- 設問別では、「クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する」**知識・技能を問う設問に課題**が見られた。
- 共通 ○無解答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、生徒が意欲的に問題に取り組んだことがうかがえる。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問調査結果の概要

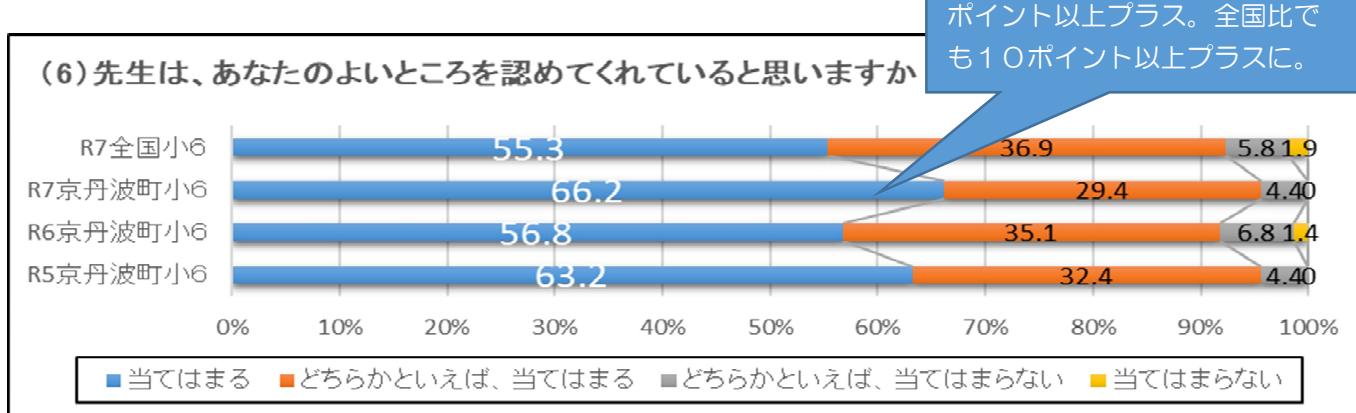
小学校6年児童（71項目）及び中学校3年生徒（70項目）を対象に質問調査が行われました。その結果のうち、「強み」として更に伸ばしていきたい項目や改善され「伸長」が見られる項目、今後「改善が必要」な項目に絞って掲載します。

【小学校】

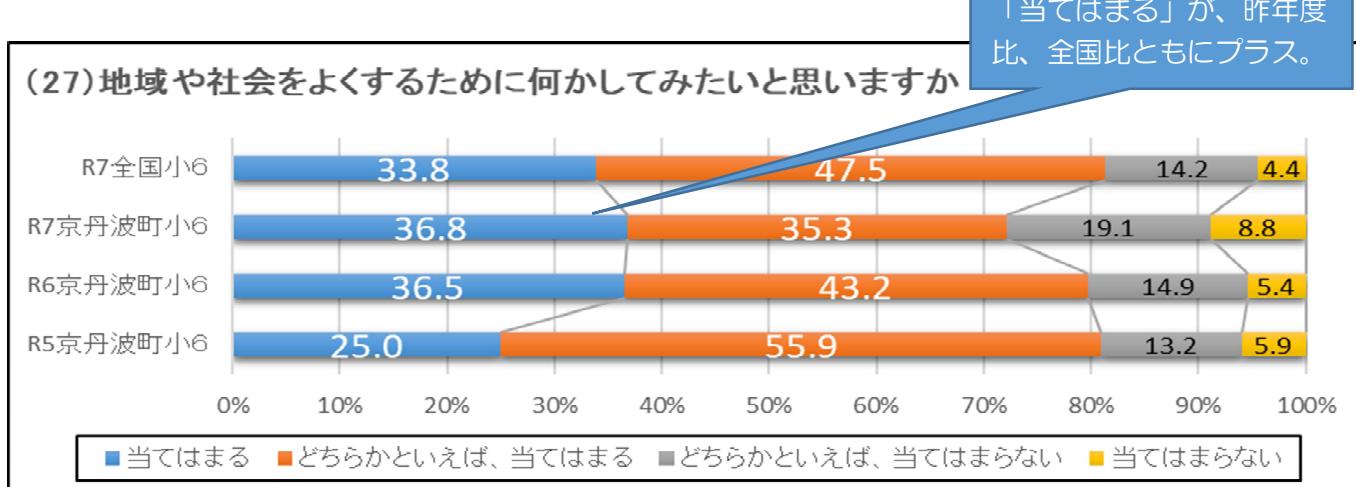
- 「自分自身を肯定的に見る姿勢」が伸長し、全国平均を上回った。



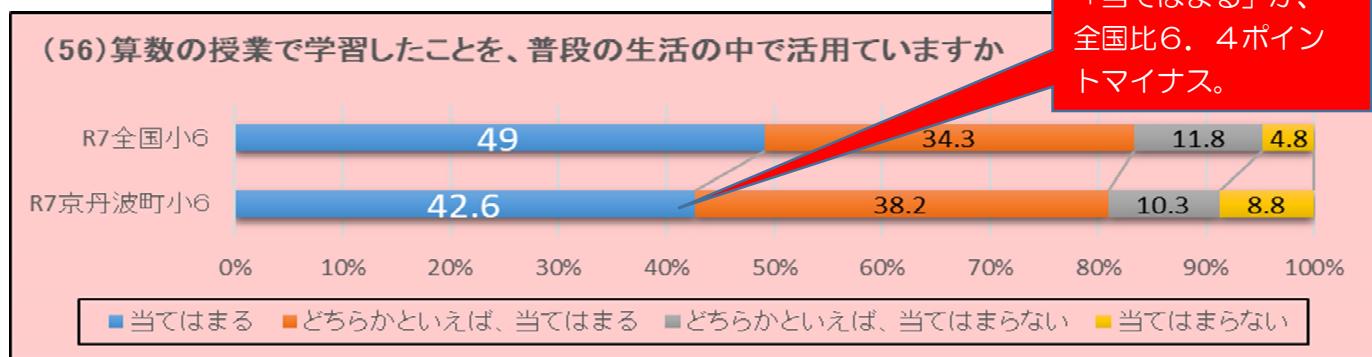
- 先生と児童のよりよい人間関係作りが進み、周りの人に認められないと実感することにより、自己肯定感が高まり、学習意欲にもつながっている。



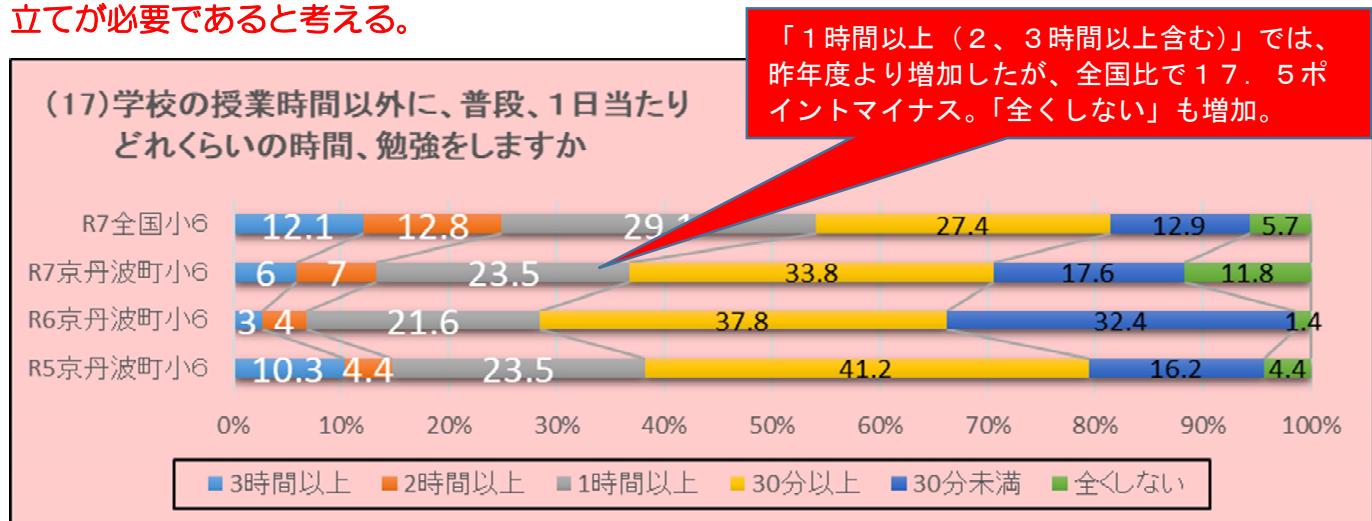
- 地域と連携した「探究的な学び」が充実し、児童が地域について考え、地域に貢献しようとする姿勢が育ってきた。



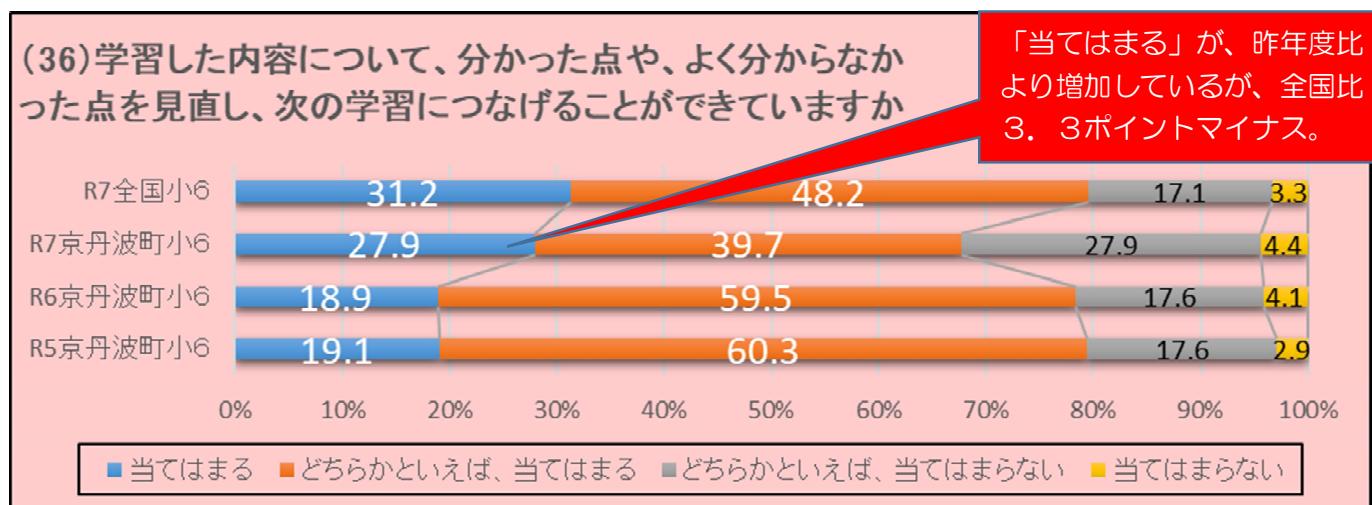
○学習指導要領では「生きて働く知識・技能」の育成が求められている。算数の学びが、教室の中だけにとどまり、学びを活用しながら身に付けるまでには至っていない。学びと普段の生活の関連をより意識できるような授業改善を図り、「学びを生活や社会のために生かそうとする態度」を伸ばす必要があると考える。



○全国平均に比べて、「家庭学習時間」が少ない。昨年度比より1時間以上学習する割合は増加しているが、全くしないと回答している割合も増加している。家庭学習の取り組み方に対する手立てが必要であると考える。

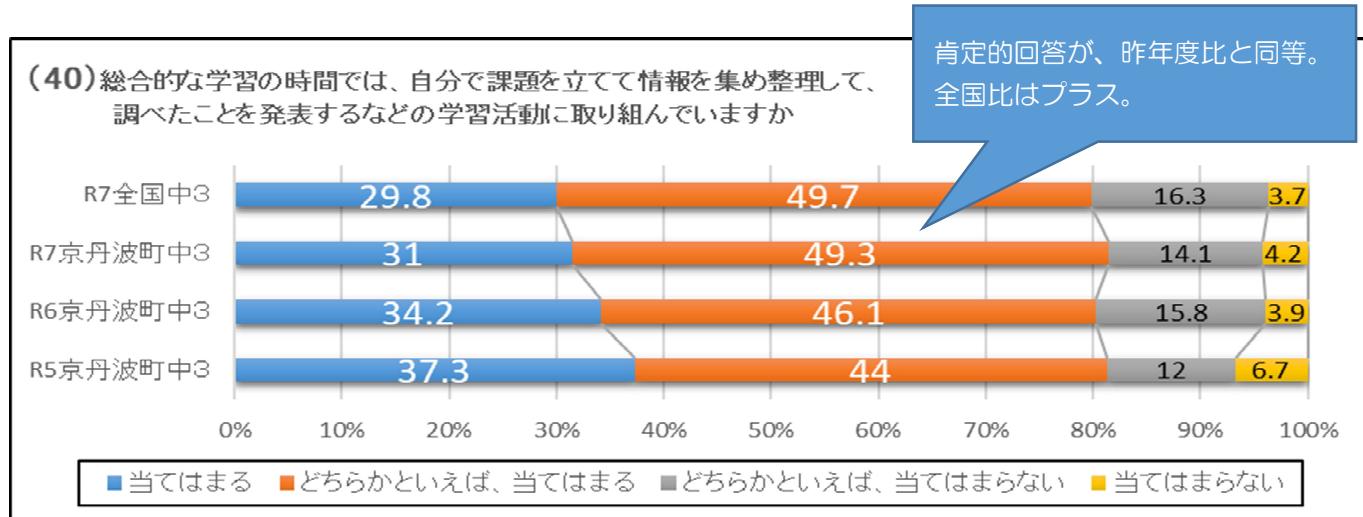


○全国平均に比べて、自己調整する力が十分に身についていないのではないかと考える。授業における学習の振り返り活動が十分できていたのかを見つめ直し、学習した内容について、振り返り活動を充実させ、児童のよりよい学びにつながるよう授業改善を図る必要がある。

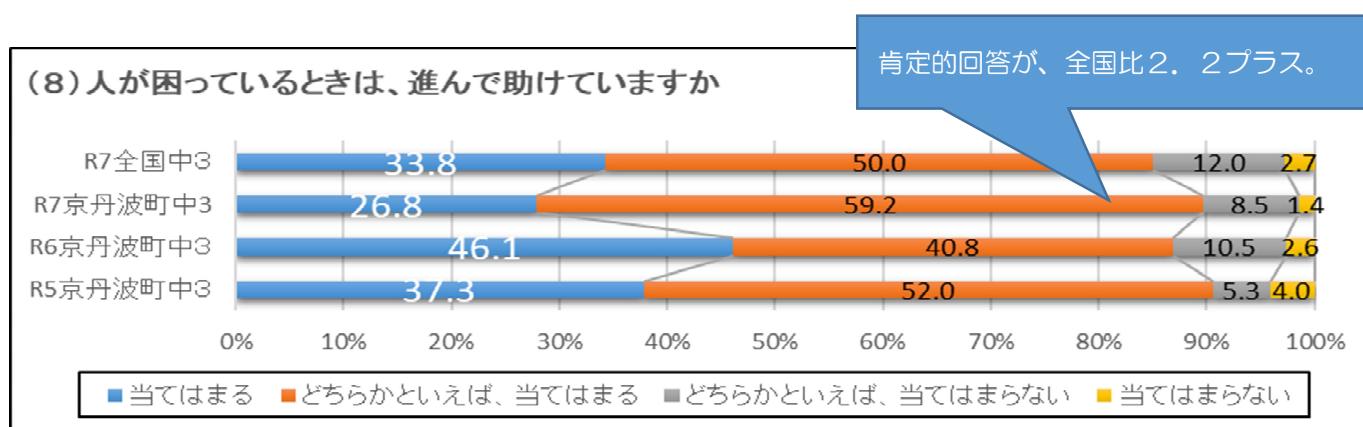


【中学校】

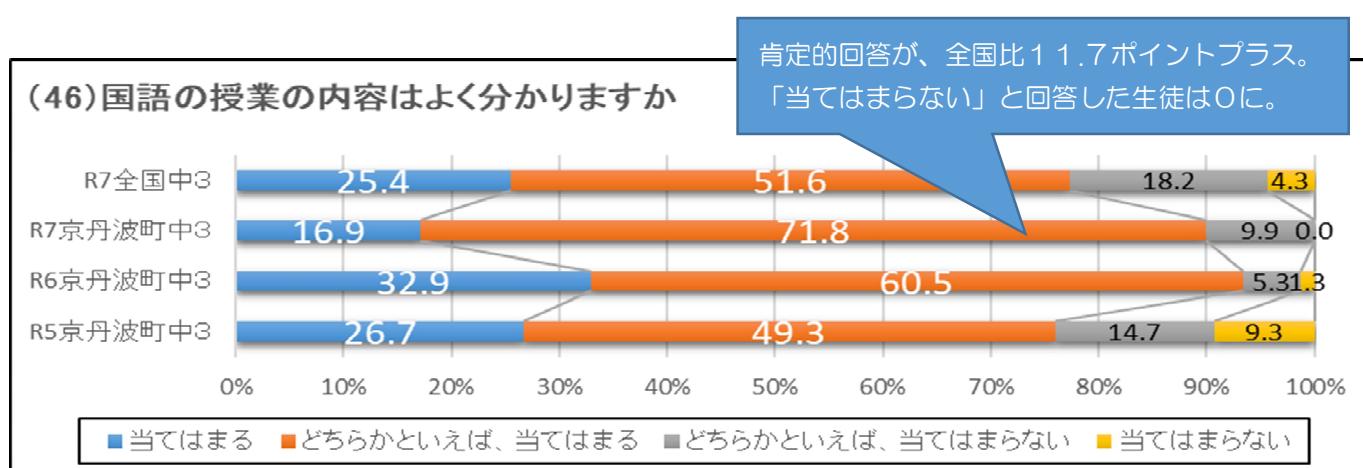
- 「総合的な学習の時間」における「探究的な学び」の充実が図られ、学び方が定着してきている。否定的回答をした一定数の生徒については、学習の方法や意義をまず理解し、探求的な学びの面白さを十分に味わえるよう、手立てを考える必要があると考える。



- 人と関わる機会が増えることで、全体的に良い人間関係が築けている。学校の中だけでなく、学校の外で地域の人等との関わりが広がることで、他者に対する関心がより広がってきている。



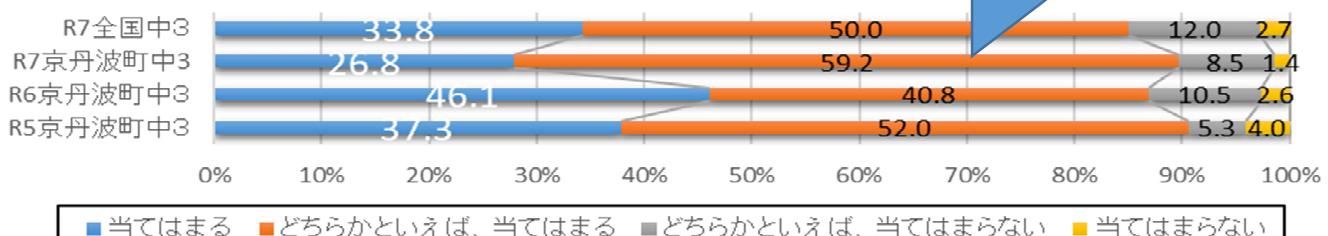
- 「国語の授業の内容が分かる」と感じている生徒が、全国と比較しても多い。指導者が実態に即した、個に応じた指導を展開するとともに、生徒が前向きに授業に臨んでいる成果だと考える。



○「先生は、分かるまで教えてくれている」と感じている生徒が多いが、「自分で学び方を考え、工夫できている」と感じている生徒は、全国平均を下回っている。学習指導要領では「主体的に学びに向かう態度（粘り強さや調整能力等）」の育成が求められています。学習に対して、受け身ではなく能動的に取り組むことができるようになります。

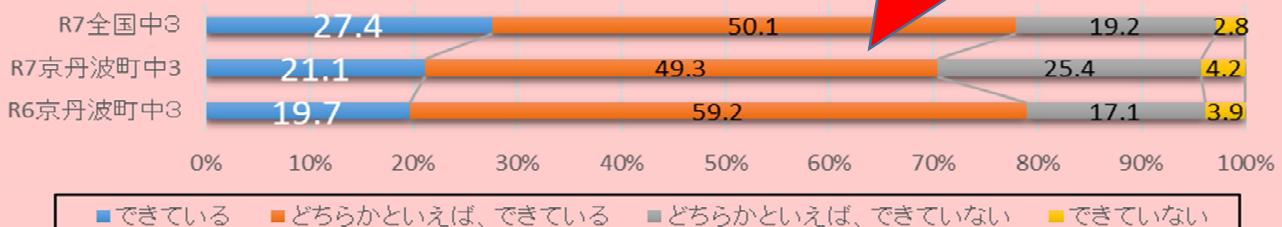
(38)先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

肯定的回答が、全国比2. 2ポイントプラスに。



(16)分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

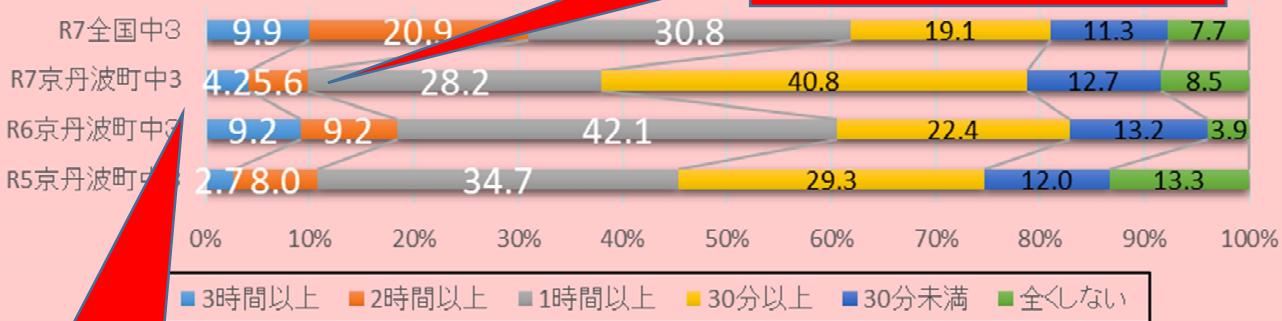
肯定的回答が、全国比マイナス7. 1。



○全国平均に比べて、2時間以上家庭学習をする生徒が少ない。小・中学校で連携して家庭学習充実に向けた取組を強化するとともに、各家庭の協力のもとで、家庭学習に向かうための環境を整える必要がある。

(21)学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか

2時間以上（3時間以上含む）では、全国比で21ポイントマイナス

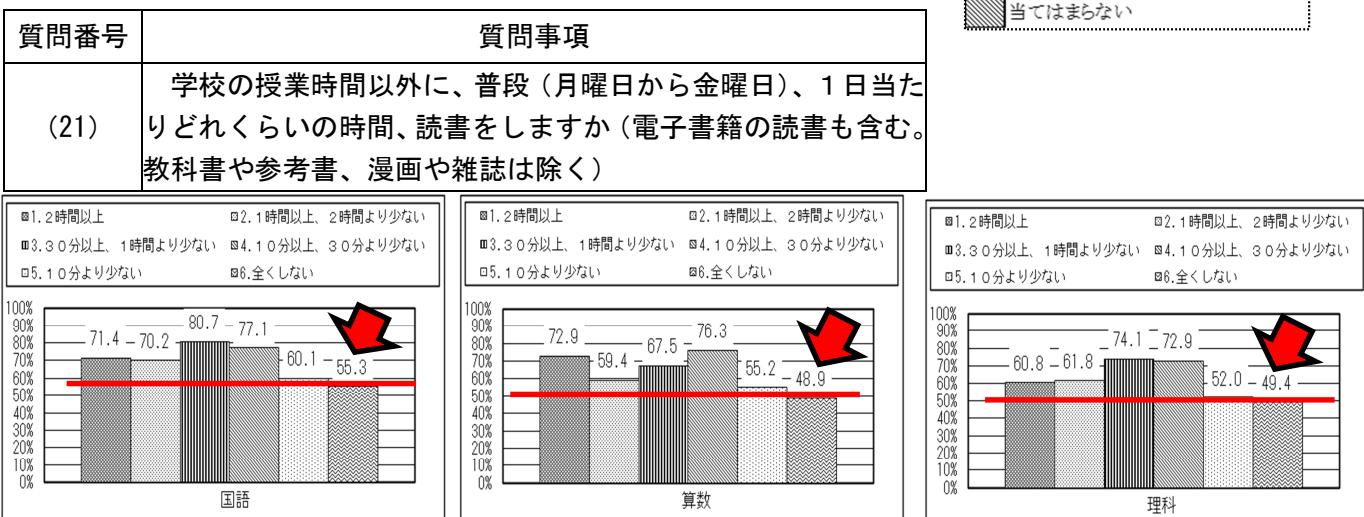


「3時間以上」が、全国比5. 7ポイントマイナス

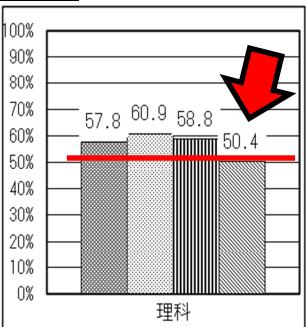
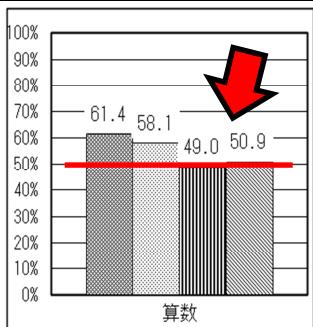
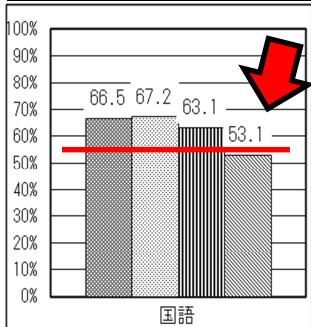
3 正答率と相関が見られた質問項目について

学力は、学習活動以外の様々な要素（生活習慣、興味・関心、学習環境、非認知能力等）に大きな影響を受けます。質問調査項目における回答ごとの正答率を見ることで、学力と相関があると考えられる要素を推定できます。以下に、顕著な相関を示した項目を掲載します。

【小学校】



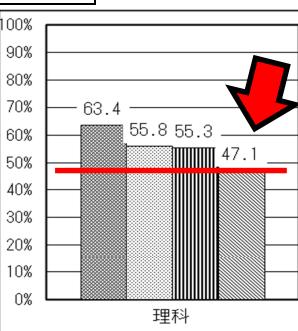
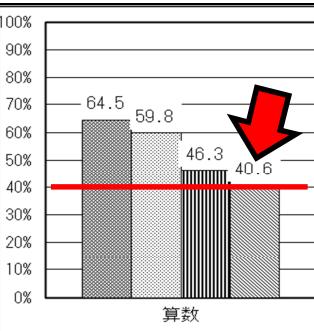
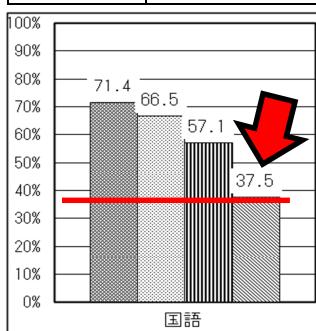
質問番号	質問事項
(5)	自分には、よいところがあると思いますか



「自分には、よいところがない」と回答している児童は、国語、算数、理科いずれも正答率が低い。

幼少時から、まわりの大人がありのままの子どもをしっかりと受け止め、努力したことや伸長した点をしっかりと評価していく必要がある。

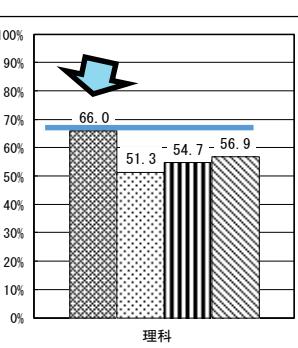
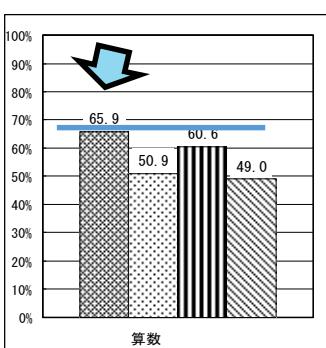
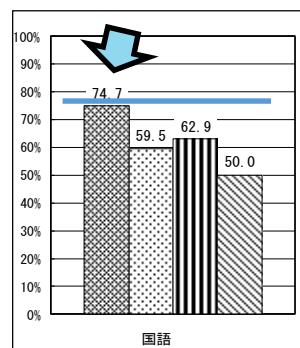
質問番号	質問事項
(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか



「学校へ行くのは楽しくない」と回答している児童は、国語、算数、理科いずれも正答率が低い。

まわりの大人が、本人の困り感や気持ちに寄り添うとともに、その原因を解消する働きかけが必要と考える。

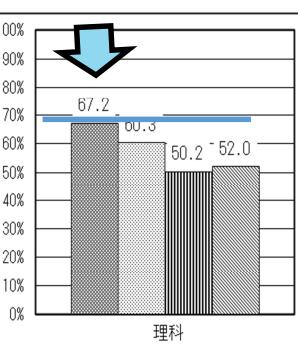
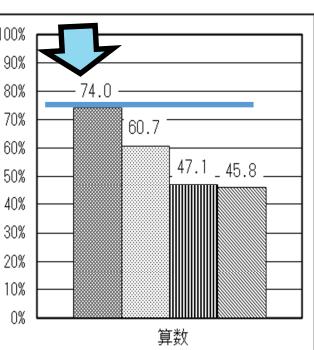
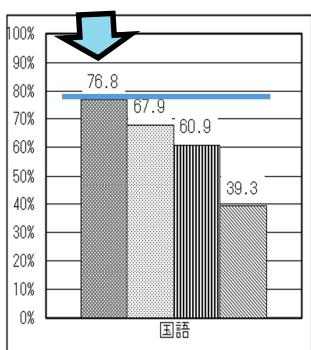
質問番号	質問事項
(27)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答している児童は、国語、算数、理科いずれも正答率が高い。

身の周りの社会や地域への関心や、そこに働きかけようという意識が自己有用感の基礎となり、学力に影響すると推察する。

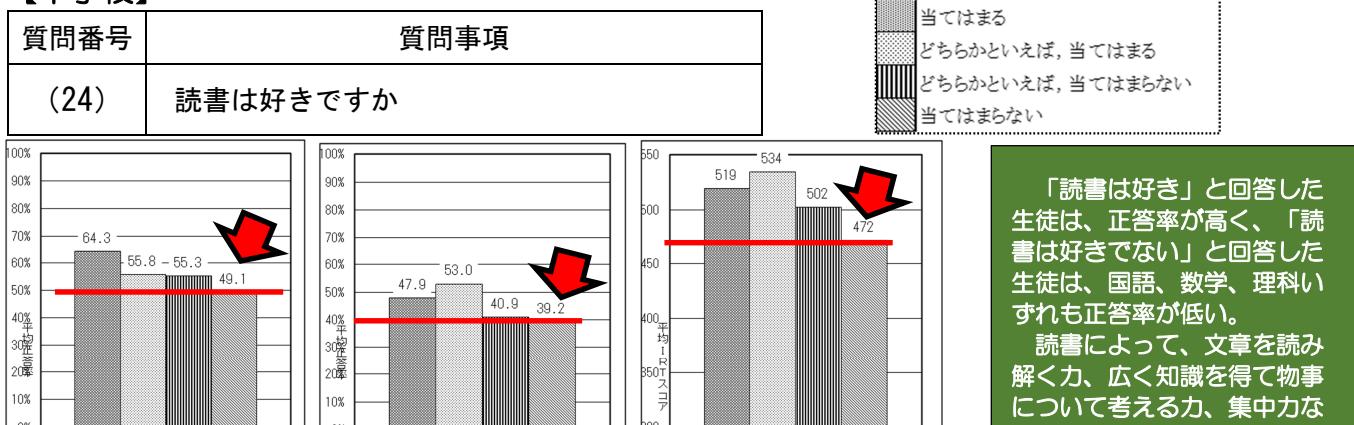
質問番号	質問事項
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



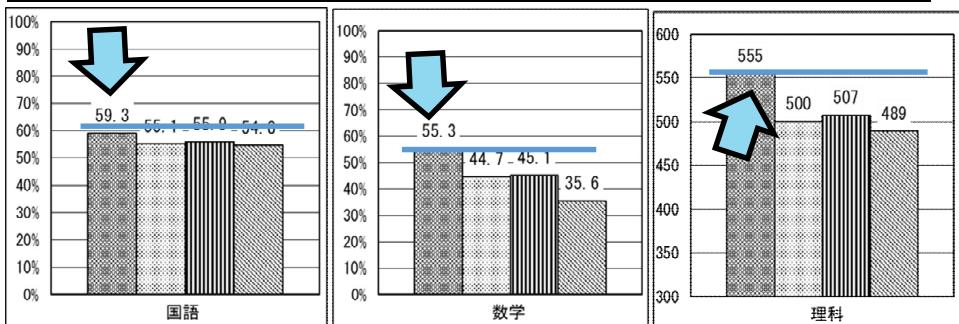
「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童は、国語、算数、理科いずれも正答率が高い。

他者の考えに耳を傾け、相手の思いや意図をくみ取り、新たな自分の考えに生かそうとする意識が、学力に影響すると推察する。

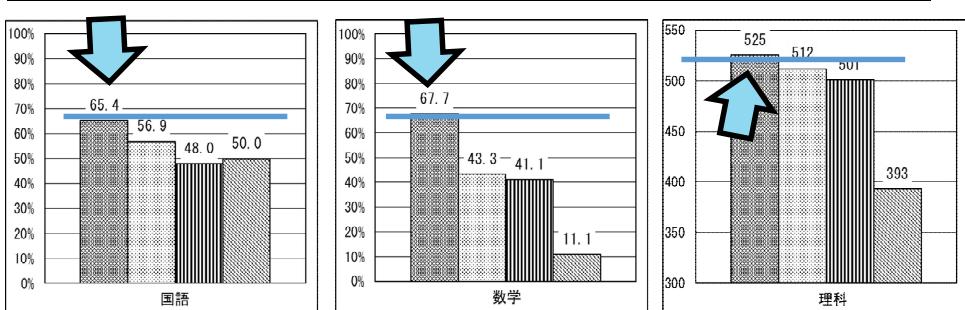
【中学校】



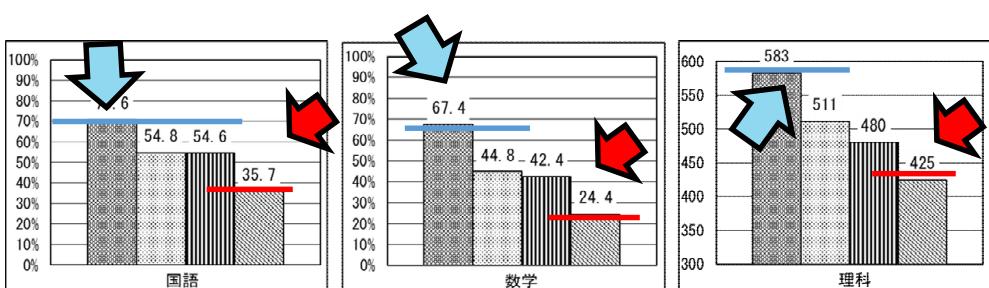
質問番号	質問事項
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



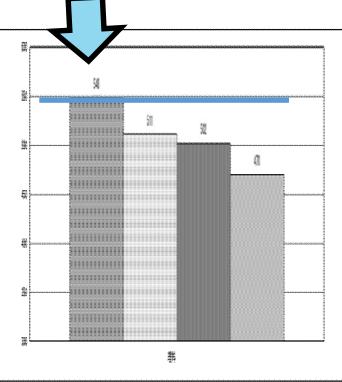
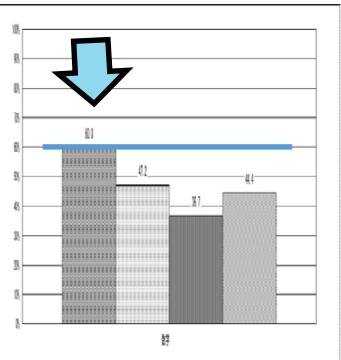
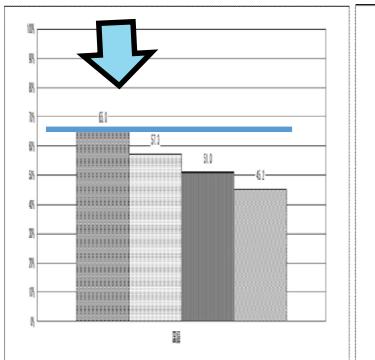
質問番号	質問事項
(16)	分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



質問番号	質問事項
(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか

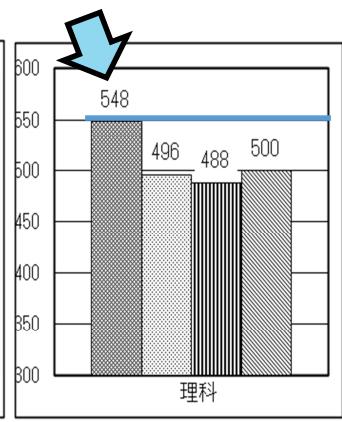
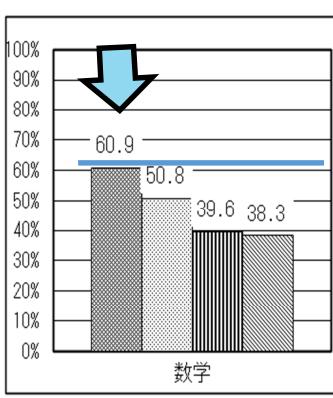
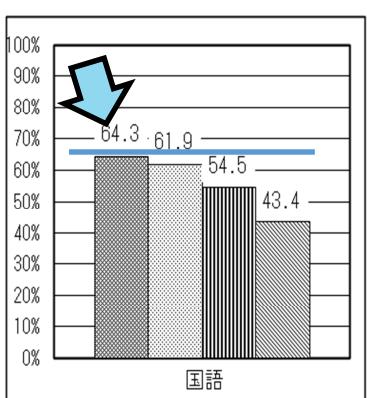


質問番号	質問事項
(32)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



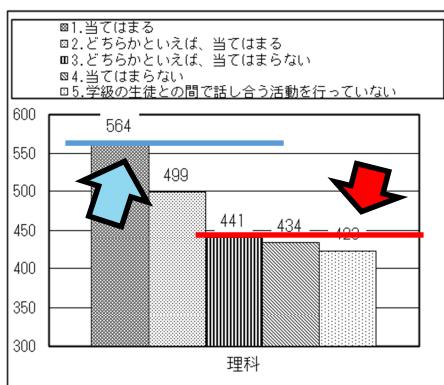
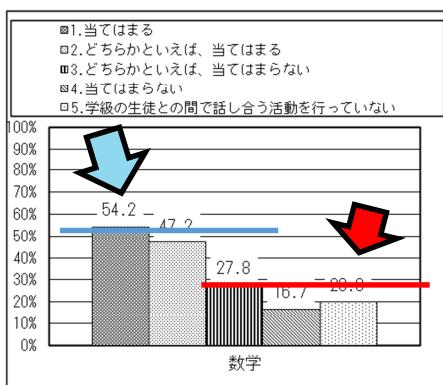
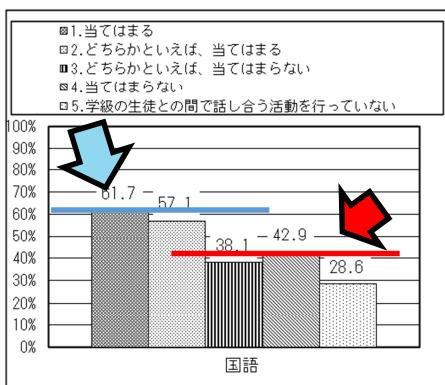
「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒は、国語、数学、理科いずれも正答率が高い。じっくりと考える姿勢が、学力の向上に繋がっていると推察できる。学びに向かう主体性、能動的な学びの姿勢が学力に大きく影響すると推察する。

質問番号	質問事項
(44)	国語の勉強は好きですか（左グラフ）
(53)	数学の勉強は好きですか（中グラフ）
(61)	理科の勉強は好きですか（右グラフ）



各教科が好きと回答した生徒は、国語、数学、理科いずれも正答率が高い。教科の学習に興味をもち、本質的な面白さを感じることによって学力向上に大きな影響があると推察する。

質問番号	質問事項
(35)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



友達と話し合う活動を有意義に行い、自分の学びとしてとらえている生徒は正答率が高く、話し合う活動にうまく参画できていない生徒は、正答率が低い。他者の声に耳を傾けながら、自分の考えも述べる活動に積極的に取り組むことが、学力の向上につながると考える。

4 京丹波町における学力充実・学力向上の取組について

京丹波町では平成29年4月に、『学びを育む京丹波町メソッド』を町内全教職員に提起して、「ユニバーサル・デザイン」と「授業改善」の視点を踏まえ、児童生徒を学びの主体者にすることで学力の向上を目指す取組を続けてきました。

昨年度、実践を通した得た知見を取りまとめた『学びを育む京丹波町メソッド（改訂版）』を全教職員に提起したことをもとに、今年度も町内小中学校が一丸となって授業改善に取り組んでいます。授業研究を通して授業力の一層の向上に努め、児童生徒の学力充実・学力向上に取り組んでいきます。

◎『学びを育む京丹波町メソッド（改訂版）』を教育実践の1丁目1番地と位置づけ、授業改善・指導改善を通して、認知能力と非認知能力を一体的に育成する。

- ・誰もが安心して自分の力を發揮でき、一人一人が大切にされる集団づくりを進める
- ・児童生徒の実態を踏まえた単元指導計画を構想し、ねらいを明確にした言語活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を進める
- ・付けたい力を明確にし、「めあて」から「振り返り」まで一貫した授業を展開する

◎教育委員会が各小・中学校との連携を強化し、各校がPDCAサイクルで学力充実・学力向上を図る『学力向上システム』を構築する。

- ・各校が、学力診断テスト結果（質問調査含む）の分析を行い、課題を明確化し、課題解決の方策を全教職員で共有して取組を展開する
- ・各校が、授業とつなぐ家庭学習のあり方を工夫し、家庭学習の充実を図る
- ・教育委員会は、指導主事の学校訪問、町独自の学力診断テストや質問調査の実施、町独自の学習支援員の配置等により、各校の取組を支援する

◎校内研修の活性化を図るとともに、学びを育む京丹波町メソッド推進プロジェクトチームによる授業研究と連動して、『教職員の指導力（授業力）の向上』を図る。

- ・各校が、指導力（授業力）の向上に向け、研究授業を軸とした校内研修を充実させる
- ・学力のベースとなる非認知能力（自己肯定感、挑戦心、粘り強さ等）の育成に向け、児童生徒への関わり方、個に応じた支援の在り方等についての研究を進める
- ・学びを育む京丹波町メソッド推進プロジェクトチームが事前研究会、研究授業、事後研究会を主導し、授業研究の充実を図る
- ・今年度は、メソッド推進委員の中堅教員が若手教員とペアとなり、指導案作成など一緒に授業づくりに取り組み、若手教員が授業公開を行う新たな授業研究方法に取り組む
- ・教科指導及び学級指導の充実を目指して、小学校における専科指導の研究やチーム担任制の研究を行う

◎「地域をフィールドとした探究的な学び（総合的な学習の時間）」や「学校ならではの学び（学校行事、児童会・生徒会活動、地域と協働した取組、部活動等）」も大ににして、「探究活動」「体験」「地域の方々との関わり」「友達や集団との関わり」を通して学んだり気づいたりすることで、認知能力と非認知能力を一体的に育むことを目指す。

◎各中学校ブロック（蒲生野、瑞穂、和知）において、認定こども園・小学校・中学校の連携を密にし、『学びの連続性』を図る。